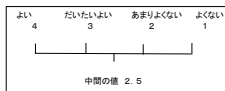


# 令和2年度 宮崎市立生目台西小学校学校評価 自己評価書 兼 学校関係者評価書



- 評価基準は4段階評価とし、右の通りです。



- 自己評価の欄には、アンケートから、児童・保護者・職員の評価のそれぞれの平均を記載しました。
- 学校関係者評価は、学校関係者評価委員8名に、自己評価、現状及び自己評価の分析、対策について評価していただきました。評価基準は同じく4段階とし、平均を記載しました。また、ご意見もいただきました。
- 高い評価の3.5以上には青の網掛け、やや低い評価の3.0未満を赤網掛けにして表示しました。

重点目標	評価項目	自己評価			現状及び自己評価の分析	対策		
		児童	保護者	職員				
学び続ける子どもを育てる(知育)	①	児童の主体的な学習意欲を育てるため、授業改善に努め、キャリア教育の視点も含めた改善を図っている。(興味・関心を高める指導視察、学習指導・方法の工夫)	3.18	2.93	3.18	3.15	○ 中間の値2・5を下回る項目はない。 ○ ①②③④⑤⑥については、校内の主題研究と絡めながら、教職員は日々授業改善に努めている。年間一人一授業を公開し、研修を受けている。指導教育委員会が示す「授業改善の4+の子エックポイント」を主眼とし、置きながら授業づくりを進めている。また、8月、11月、2月には、年度当初に共通理解を固めた15項目について焦点を当て、自分の授業の「振り返り」を全職員一斉に行っている。	○ ①②③④⑤⑥については、継続して研修を促め、今後も一人一授業等により、教職員が互いに切磋琢磨しながら授業改善を行う。 ○ ①については、年度以降、キャリア教育の視点を授業に生かせるような取組を行う。 ○ ②については、今年度の研究をもとに、リーディングスキルの育成を図る指導の改善をねらいたい。
	②	リーディングスキルの育成を図る指導の工夫や比較の視点や、読解を考えさせるなどの手立てをとり、思考力・判断力を育てるよう指導している。	2.98	3.10	3.00	3.38	○ ①については、主体的な学習への取組は、ある程度意識できたが、キャリア教育の視点での改善はあまり実践できていない。 ○ ②については、全職員の主題研究の1つの柱として、理論的な研究からはじめ、日常の授業に生かすような取組を始めている。	○ ③については、今後NIEタイムの内容の充実等も図りながら、児童の表現力に働きをかけた。 ○ ④の学力調査の結果を分析し、今後の指導の中で、弱点補強を確実に行う。また、教育課程の見直しの視点に、カリキュラムマネジメントを加え、改善を図る。
	③	発表の機会を増やしたり、NIEタイムを活用したりなどの手立てをとり、表現力を育てている。	2.91	3.15	3.45	2.88	○ ③については、授業の中で発表の機会確保以外に、放送での意見発表を実施したり、朝学習の中にNIEタイムを組み込むことにより自分の意見を文章で表現したりする取組を行っている。	○ ⑤については、授業の中で、子供に「なぜ」という疑問を主体的に自覚できるよう導入からその解決のための学習活動の流れとなるような改善を図りたい。
	④	学力調査等の結果分析を行い、授業改善に努め、カリキュラムマネジメントを意識した教育活動の展開を図っている。	3.34	3.33	2.88	3.06	○ ④の学力調査については、12月に実施され、まだ結果が出ていないため、教職員による評価が低くなっているものと考えられる。また、カリキュラムマネジメントを意識した活動の展開は不十分である。	○ ⑦については、今年度学級懇談がなかったことで、保護者にとっては、今ひとつ学校の様子や学級担任の考えが伝わらなかったと感じている様子である。新型コロナウイルス感染症の今後の状況が予測困難であるが、その中で保護者の不安を軽減できるような取組の工夫を行う。
	⑤	個に応じた指導及び学習の見届けの徹底に努め、基礎学力の定着を図っている。	3.46	3.27	3.20	3.38	○ ⑤については、問題解決的な学習を意識した授業改善という点では不十分である。	
	⑥	「なぜ」という疑問を大事にし、問題解決的な学習を意識した授業改善に取り組んでいる。	3.12	2.84	2.90	3.08	○ ⑦については、今までのところ、新型コロナウイルス感染症対策のため、学級懇談を行うことができないことが理由で、保護者による自己評価が低かったものと推察される。各学級担任は、学校だよりや個人面談、個別連絡等により、家庭との連携を図った。	
	⑦	学級懇談、学級だより等を通して、家庭と連携した家庭学習の充実を図っている。	3.27	2.88	3.22	3.38		
【学校関係者評価委員の意見】 ONEタイムに興味あり、ぜひ継続していただきたい。表現力を育てていくことはとても重要だと思う。それと聞く力も同時に育ててほしい。 ○小中学校での家庭学習の定着が、中学校での学習の基礎になることを、日々痛感しています。先生方の日々のご指導に感謝しています。 ○カリキュラムマネジメントを意識した活動の展開は不十分であるところは何故なのか？ ○学年のまとめの時期に新学期のスタートの連発は、児童にとってまとめと振り返りの時間の個人差ができてしまうと思われま。映像文化育ちの児童にとってじっくり読んでも自分の言葉で表現する(特に文章を書く)事が苦手なように思われます。 ○保護者や児童からの意見を大事に受け止め反映してほしいです。(意見があがってくるということは、期待しているということだからです。) ○主体的に新型コロナウイルス感染症拡大防止対策で自覚があったりで、学習にかなり影響があったように感じますが、質を落とさず努力は見られたと思う。 ○課題があまりにも多すぎて、どれも一番大切か、どれも一番取り組みやすいかがよくわかりません。一番かん単なものから取り組んだら、解決が早いかわかりませんが、他の学校は、そこに目もついたらやり方をしている所もあります。本をたくさん読んで欲しいです。むずかしい字が出てきたらばしても良い、その前後からそうぞうする事も大切ですが。 ○教師は金力で教えようとして、すべての生徒はそれを懸命に理解しようとしている質の高い「授業」がなされています。								

重点目標	評価項目	自己評価			評価委員	現状及び自己評価の分析	対策
		児童	保護者	職員			
心やさしい子どもを育てる（徳育）	⑧ 1「凡事態度」を基盤し進んであいさつなどができる子どもの育成	3.35	3.13	3.27	3.25	○ 中間の値2.5を下回る項目はない。 ○ ⑧については、児童、保護者、教職員の3者とも比較的高い評価となっている。朝は、あいさつ運動が実施されており、大きな声であいさつをしているが、それ以外の時のあいさつや会釈もできるようにしたい。スリッパ並べについては、各学年の具体的な対策を実施するようになってからは、概ね良好であるが、児童棟以外のトイレのスリッパも並べられるようにしたい。また、「凡事態度」についてもほとんどの児童が理解し、学年の発達段階に応じ、それを意識した活動ができるようになっていく。	○ 「凡事態度」については引き続き学校のキーワードとして指導し、各学年によって取り組む内容については工夫させる。 ○ 「自分も大事 相手も大事」についても、引き続き全校で指導していく。特に、「大事」という視点でも言葉の違いに重点を置く。 ○ 今後、朝以外でのあいさつについても指導していく。また、スリッパ並べについても、引き続き指導を行い、習慣化を図る。
	⑨ 2「自分も大事 相手も大事」を基盤し、思いやりのある言葉づかいができる子どもの育成	3.87	3.30	3.27	3.68	○ ⑨については、児童や教職員の評価は高めであるが、保護者の評価が低い部分があるということは、家庭での言葉づかいが今一つであると考えられる。 ○ 「自分も大事 相手も大事」については、児童に浸透しつつあり、実践は高まってきたように思う。ただ、相手に対する言葉遣いという点では、さらなる指導が必要である。	○ ⑨については、学校外でも思いやりのある言葉づかいができるように、家庭と連携をとりながら指導を進める。 ○ 無言清掃については、2学期から縦割り清掃を取り入れたこともあり、改善が見られる。ボランティア活動については、活動の例などを示しながら、無理なくできることから進んで取り組んでいきたい。
	⑩ 思いやりのある言葉遣いができるよう指導している。	3.14	2.88	3.45	3.38	○ ⑩については、児童による評価が低い。上学年による朝のボランティアが計画的に実施されている。	
	⑪ 3無言で清掃に取り組むことができる子どもの育成		2.88	3.28	3.27	3.25	
	学校・学級の一員として、進んで無言清掃やボランティア活動に取り組むよう指導している。						
【学校関係者評価委員の意見】 ○子育て環境の変化で、心の教育が学校に任されている気がする。負担が多いと思うが、引き続きよろしくお願ひしたい。 ○指示された事はできますが、自分で考えて行動する事は苦手な児童が多いように思われます。 ○学校での行いが家庭へ浸透するには、時間がかかるが諦めず、繰り返し伝えていき、家庭でも変化が見られることを期待したい。 ○あいさつをしっかりできる子供は、1人になっても大丈夫です。1人の時にしっかりあいさつできる子に育てて下さい。すぐに効果が他の部分にも出てくるはずですよ。 ○地域で見かける当校のすべての生徒は、目を輝かせて気持ちの良い挨拶をしてくれます。大事なことだと思います。							

重点目標	評価項目	自己評価			現状及び自己評価の分析	対策
		児童	保護者	職員		
心と体をきたえ、たくましく育てる子どもを育てる（保健）	⑩ 1 心身の健康への意識と実践的態度を高めるため、日常的・計画的に指導をしている。また、感染症などから、自らを守るための健康習慣の定着としても指通している。（早寝・早起き・朝ご飯・歯磨き、手洗いや腹筋の力を高めるよう努めている。	3.43	3.09	3.36	<b>3.69</b>	○ 中間の値2.5を下回る項目はない。 ○ ⑩については、児童、保護者、教職員の3者とも比較的高い評価となっている。その中では、保護者による評価が低めであることから、家庭での習慣化を充実させていく必要がある。
	⑪ 2 学校行事等を生かした体力向上の取組の充実	3.34	3.19	<b>###</b>	3.00	○ ⑪⑫⑬⑭⑮⑯については、感染症対策を徹底しながら、体育の授業を充実させていく。また、様々な場面で、いろいろな体力の向上を図るようにさせる。昼休みは、できるだけ運動場で遊ぶように促す。
	⑬ 体力向上プランに基づき、運動の楽しさを味わわせることができるよう授業改善に努めている。	<b>###</b>	3.40	<b>###</b>	3.21	○ ⑬⑭については、教職員による評価が低い。これは、今年度新型コロナウイルス感染症の影響で、体力テストが実施できなかったためである。また、年度当初は、体育の授業も実施することができていなかった。
	⑭ 学校行事の機会を生かし、運動への意欲を高め、基礎体力を高める。	<b>###</b>	<b>###</b>	3.11	3.44	○ ⑮については、縮小規模ではあったものの運動会を行い、それに向けて一生懸命に取り組んだことから、特に児童による評価が高くなっている。
	⑯ 3 立腰指導の徹底	⑯ 立腰を意識させ、授業を受けさせている。	<b>###</b>	<b>###</b>	<b>###</b>	2.71
【学校関係者評価委員の意見】 ○コロナ禍、運動会を開催していただきありがたい。子どもたちの頑張る姿には、いつも元気をもらう。今年はさくら公園から見学したが、学校行事の意味を考えるいい機会になった。 ○本年度は、コロナ流行の中、学校では行事へのかかわり方など大変なご心配だったと思います。そんな中、子どもたちを守り、育てていただきありがとうございます。 ○コロナ禍の中、メディア依存の多い生活のためでしょうか、姿勢の悪い児童が多いように思われます。 ○コロナ禍の中での体力向上が課題となる。 ○生活習慣の徹底をもっと家庭が意識すべきと考える。学校はよく指導していると思う。 ○立腰の評価が低いのが気になる。意味があるのだろうか。 ○一度、朝ご飯を食べないで、登校する生徒が何%くらいいるかどうか、調べてみて下さい。良く食へ、良く寝て、良く遊ぶ生徒を自ざして下さい。 ○私の幼稚園を卒園した生徒たちが、見るたびに確実に心身共に成長していることを実感しています（見ればわかります）。						

重点目標	評価項目	自己評価			評価委員	現状及び自己評価の分析	対策
		児童	保護者	職員			
しっかりと食へる子どもを育てる(一食育)	①	食に関する知識を指導し、児童が知識を生かして弁当をつくるよう指導している。	3.21	2.04	2.80	2.80	<p>○ 中間の値2.5を下回る項目はない。</p> <p>○ ①(非)弁当を作る際、発達段階に応じて取組目標がたられており、児童による評価は高い。教職員による評価が低めであるのは、取組目標の達成が不十分であるからである。</p> <p>○ ②(非)食事のマナーについて、児童及び教職員の評価は高めであるが、保護者による評価が低い。これは、学校の給食時はきちんとしたマナーで食事しているが、家庭でできていないということが高くなる。</p> <p>○ ③給食の残棄がほとんどなく、よく食べることができている。</p> <p>○ ④については、保護者及び教職員の評価がやや低い。学校からの情報提供が十分ではないことが伺える。</p> <p>○ ①(非)については、児童に対して弁当の日の前に食の指導を行う採算を設定する。特に、単に作るのではなく「自立・絆・感謝」という弁当の日の意義を再度指導することでねらいを達成を図る。</p> <p>○ ②(非)食事のマナーの意義を指導し、どこでもきちんとしたマナーで食事ができる児童の育成を目指す。また、家庭にも学校で指導している内容を伝え、食の大事さという視点で連携して食育を行う。</p> <p>○ ③(非)児童に食の指導を行った際は、必ず保護者にも学級だより等を通してその内容を伝える。</p>
	②	弁当を自分で作らせることで、食事を通して、主体性を育てている。	3.45	3.10	2.85	2.85	
	③	食事のマナーについて、給食時の指導や、学活・生活科などでも指導を行い、指導を充実させている。	3.89	2.69	3.00	3.07	
	④	給食時に、好き嫌いをせず何でも食べるよう指導をしている。	3.41	3.23	3.20	3.70	
	⑤	学校懇談、学級だより等を通して、食の大切さについて情報提供し、好き嫌いをなくす指導に家庭の協力を得るようにしている。	3.42	2.77	2.80	2.71	
<p>【学校関係者評価委員の意見】</p> <p>○「弁当の日」について、もう一度原点にかえて、学校・家庭で食育について語っていただきたい。</p> <p>○おうち時間が長かった事による戦の偏りが心配です。今までは給食によってカバーできていたのですが、家庭の意識の差がかなり児童の食生活に影響をおよぼしているように思われます。</p> <p>○食育に関する取り組みは、学校での指導では、意識できているが家庭との連携がつかっていないと思われる。家庭(保護者自身)が食育の大切さを認識していないし様々な家庭環境により、そこまで食育の重要性を考えていない(考える余裕がない)と思われる。</p> <p>○弁当を生徒で作ることは、創造性を高めるうえでも大事なことであり評価できます。続けていただきたいです。</p>							

<p>【学校関係者評価委員よりその他の意見】</p> <p>○保護者意見にPTA活動についての意見があったが、大なり小なり他の保護者も感じていると思う。地域性もあるが課題だからなので、地域全体で考えていなければならない。</p> <p>○別組に①PTA活動について ②中学校との交流として「中学生の母校訪問」意見、提案させていただきたいです。</p> <p>○家庭内での指導不足等が大である。学校からの情報発信を強化する必要大と思う。</p> <p>○コロナ禍での保護者や地域との連携のとり方について、今後はもっと話し合い、研究する必要があると思われる。</p> <p>○コロナ禍の中、学校生活や学校行事も制限されると今までのような指導も十分にできないし、学校に向く機会も制限されれば家庭との情報共有も難しくなってくるだろう。新しい生活様式の中での工夫や方法が変化してくるだろうが、これからも学校には期待し、努力し続けてほしい。地域としての協力も惜しまない。</p> <p>○以前は、安全マップの後に生徒と食事を一緒にして良くわかったのですが・・・</p> <p>○本年度は、学校の様子を見れば残念でした。又、学校に伺えず申し訳ありませんでした。後援会長より子供たちが頑張っている事をお聞かせしています。</p> <p>○校長先生の「教育」に対する強い思いが全教職員を通じてクラスの隅々まで浸透していて質の高い学校経営がなされていると思えます。</p>
--